

令和5年度 学校評価 【遼摩高等学校】

生徒育成方針 (グラデュエーションポリシー)		①地域に愛着と誇りを持ち、地域の発展に貢献できる生徒の育成を育成する。 ②自らの課題や目標を設定し、自己実現に向けて主体的に取り組む生徒を育成する。 ③多様性を認め、協働しながら、課題を解決できる生徒を育成する。 ④自己肯定感・自己有用感が抱ける生徒を育成する。				【評価】 A：達成 B：概ね達成(目標値80%以上) C：改善努力必要																																																												
評価計画					検証方法(アンケート等)			学校評価の結果・評価・課題・改善案																																																										
重点目標	生徒育成方針	運営方針	担当	具体的施策	評価指標 (到達したい状況・状態)	目標値			アンケート内容	結果	校内評価	反省及び次年度への課題等	学校関係者評価	改善案																																																				
						生徒	保護者	教職員																																																										
学校や生徒の魅力化	①	総合学科高校としての魅力発信	総務	・例年参加者が少ない第2回目のオープンスクール内容の改善。中学生に遼摩高校生徒の日常の授業風景、部活動の様子を見学してもらう。 ・遼摩高校生と中学生の意見交換の場も設定する。	参加人数 第1回 100人 第2回 80人	100%	—	—	—	第1回112名 第2回40名	C	・第1回は予想を上回る人数に参加してもらった。第2回は内容を大きく変更したが、周知が遅く、参加人数が少なく残念だった。しかし、2回目の内容は、中学生と遼摩高生の交流、授業見学は効果が見られたので、次年度は2回セットとして周知したい。	B	・第1回目の開催案内の際に、第2回目の内容を盛り込んでセットで案内する。 ・第1回目も体験のみならず、高校生との交流の時間を検討する。																																																				
	①	PTA活動の充実		・保護者・教職員が参加しやすい企画を考える。 ・保護者、教職員が協力して、学校教育活動の活性化を図るよう事前に広報をきちんとし、参加者を増やす。	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○	—	—	—	89.0%	A	・学園祭に関しては、コロナ5類になり少しではあったが企画の拡大を図った。連携してさらに企画を考えたい。 ・PTA総会は日曜日開催とし、また内容を改善して、参加しづらかった保護者の参加に期待する。	B	・保護者に対してのアンケート内容は、回答しやすいような質問に変更する。 ・PTA総会は日曜日開催とし、また内容を改善して、参加しづらかった保護者の参加に期待する。																																																			
	②	生徒の将来を見通したキャリア教育の充実	総合学科研究	(1年生) ・系列選択ガイダンスや系列授業見学・体験を通じ、生徒が主体的に進路目標に応じた系列選択ができるよう体制を強化する。	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○	—	—	—	97.2%	A	あなたは系列・科目選択を自分の目標や興味・関心に合わせて自分の意思で主体的に選択することができたと思いますか。	90.2%	A	お子様は系列・科目選択を自分の目標や興味・関心に応じて、主体的に選択することができたと思いますか。	96.7%	A	系列・科目選択のためのガイダンス、系列別体験授業、系列別授業見学、履修相談会等は、生徒の目標や興味・関心に応じた主体的な選択を実現させるための指導体制として効果的に機能していましたか。	97.3%	A	あなたは「PBL型インターンシップ」を通して、将来を見通したキャリア教育の充実を図ると共に、身近な地域課題解決学習に主体的・協働的に取り組む姿勢を育成することができたと思いますか。	83.3%	A	お子様は「PBL型インターンシップ」を通して、将来を見通したキャリア教育の充実を図ると共に、身近な地域課題解決学習に主体的・協働的に取り組む姿勢を育成することができたと思いますか。	76.7%	B	生徒は「PBL型インターンシップ」を通して、将来を見通したキャリア教育の充実を図ると共に、身近な地域課題解決学習に主体的・協働的に取り組む姿勢を育成することができたと思いますか。	96.7%	A	「ファイブスターカンパニー」が生徒主体で運営され、「遼摩高フェア」が学習成果と地域を繋げる取組になっていたと思いますか。	90.2%	A	お子様は「遼摩高フェア」に主体的に関わり、学習成果と地域を繋ぐ取組に貢献できていたと思いますか。	100.0%	A	「ファイブスターカンパニー」が生徒主体で運営され、「遼摩高フェア」が学習成果と地域を繋げる取組になっていたと思いますか。	98.4%	A	進路weekや進路ガイダンスなどの進路行事や、進路に関わる学びを通して、社会と自分の関わりや将来の自分の生き方、そして進路実現のために今しなければならないことなどについて、考えることができましたか。	96.7%	A	進路行事(進路week・ガイダンス)や補習、面接・小論文指導などを通して、進路選択に必要な知識や態度を育成するための指導支援ができていたと思いますか。	96.3%	A	保健委員会の活動は、あなたの健康増進や環境整備・美化に対する意識につながっていると思いますか。	80.0%	A	保健委員会の活動は、生徒の健康増進や環境整備・美化に対する意識につながっていると思いますか。	76.4%	B	本や雑誌・新聞を目にしたたり、授業や調べ学習や試験勉強をしたり、放課後などの休み時間に図書館を利用したり、図書館を利用した活動や行事に参加したりしましたか。	27.0%	C	ご家庭でお子様は週に1回程度は活字の本や雑誌・新聞をお読みになる姿をご覧になりましたか。	63.3%	C	授業やその他の活動、または図書・資料の検索、貸出等で、図書館を利用できましたか。	85%	○	—	—	—	83.3%	B	・教職員研修やChromebookによる困り感チェックシートを実施することで、生徒の多様性についての理解を深めることができた。次年度はミニ研修会や便り等の実施回数を増やし、教職員の特別支援教育への理解を一層深めたい。
	②	生徒の将来を見通したキャリア教育の充実		(2年生) ・「PBL型インターンシップ」により、生徒が将来を見通したキャリア教育の充実を図ると共に、身近な地域課題解決学習に主体的・協働的に取り組む姿勢を育成する。	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○	—	—	—	—	97.3%	A	あなたは「PBL型インターンシップ」を通して、将来を見通したキャリア教育の充実を図ると共に、身近な地域課題解決学習に主体的・協働的に取り組む姿勢を育成することができたと思いますか。	83.3%	A	お子様は「PBL型インターンシップ」を通して、将来を見通したキャリア教育の充実を図ると共に、身近な地域課題解決学習に主体的・協働的に取り組む姿勢を育成することができたと思いますか。	76.7%	B	生徒は「PBL型インターンシップ」を通して、将来を見通したキャリア教育の充実を図ると共に、身近な地域課題解決学習に主体的・協働的に取り組む姿勢を育成することができたと思いますか。	96.7%	A	「ファイブスターカンパニー」が生徒主体で運営され、「遼摩高フェア」が学習成果と地域を繋げる取組になっていたと思いますか。	90.2%	A	お子様は「遼摩高フェア」に主体的に関わり、学習成果と地域を繋ぐ取組に貢献できていたと思いますか。	100.0%	A	「ファイブスターカンパニー」が生徒主体で運営され、「遼摩高フェア」が学習成果と地域を繋げる取組になっていたと思いますか。	98.4%	A	進路weekや進路ガイダンスなどの進路行事や、進路に関わる学びを通して、社会と自分の関わりや将来の自分の生き方、そして進路実現のために今しなければならないことなどについて、考えることができましたか。	96.7%	A	進路行事(進路week・ガイダンス)や補習、面接・小論文指導などを通して、進路選択に必要な知識や態度を育成するための指導支援ができていたと思いますか。	96.3%	A	保健委員会の活動は、あなたの健康増進や環境整備・美化に対する意識につながっていると思いますか。	80.0%	A	保健委員会の活動は、生徒の健康増進や環境整備・美化に対する意識につながっていると思いますか。	76.4%	B	本や雑誌・新聞を目にしたたり、授業や調べ学習や試験勉強をしたり、放課後などの休み時間に図書館を利用したり、図書館を利用した活動や行事に参加したりしましたか。	27.0%	C	ご家庭でお子様は週に1回程度は活字の本や雑誌・新聞をお読みになる姿をご覧になりましたか。	63.3%	C	授業やその他の活動、または図書・資料の検索、貸出等で、図書館を利用できましたか。																
	①	地域と連携した総合学科教育の魅力化推進		・学校行事「遼摩高フェア」を全学年・全教職員体制で実施し、総合学科高校における地域課題解決型学習の成果を包括的に具現化させる。	生徒・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○	—	—	—	—	96.7%	A	「ファイブスターカンパニー」が生徒主体で運営され、「遼摩高フェア」が学習成果と地域を繋げる取組になっていたと思いますか。	90.2%	A	お子様は「遼摩高フェア」に主体的に関わり、学習成果と地域を繋ぐ取組に貢献できていたと思いますか。	100.0%	A	「ファイブスターカンパニー」が生徒主体で運営され、「遼摩高フェア」が学習成果と地域を繋げる取組になっていたと思いますか。	98.4%	A	進路weekや進路ガイダンスなどの進路行事や、進路に関わる学びを通して、社会と自分の関わりや将来の自分の生き方、そして進路実現のために今しなければならないことなどについて、考えることができましたか。	96.7%	A	進路行事(進路week・ガイダンス)や補習、面接・小論文指導などを通して、進路選択に必要な知識や態度を育成するための指導支援ができていたと思いますか。	96.3%	A	保健委員会の活動は、あなたの健康増進や環境整備・美化に対する意識につながっていると思いますか。	80.0%	A	保健委員会の活動は、生徒の健康増進や環境整備・美化に対する意識につながっていると思いますか。	76.4%	B	本や雑誌・新聞を目にしたたり、授業や調べ学習や試験勉強をしたり、放課後などの休み時間に図書館を利用したり、図書館を利用した活動や行事に参加したりしましたか。	27.0%	C	ご家庭でお子様は週に1回程度は活字の本や雑誌・新聞をお読みになる姿をご覧になりましたか。	63.3%	C	授業やその他の活動、または図書・資料の検索、貸出等で、図書館を利用できましたか。																									
	②	キャリア教育の充実と推進		進路指導	・進路行事や進路学習の時間を計画的に活用する。 ・進路希望調査・生徒面談・進路検討会等を効果的に利用する。	生徒・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○	—	—	—	98.4%	A	進路weekや進路ガイダンスなどの進路行事や、進路に関わる学びを通して、社会と自分の関わりや将来の自分の生き方、そして進路実現のために今しなければならないことなどについて、考えることができましたか。	96.7%	A	進路行事(進路week・ガイダンス)や補習、面接・小論文指導などを通して、進路選択に必要な知識や態度を育成するための指導支援ができていたと思いますか。	96.3%	A	保健委員会の活動は、あなたの健康増進や環境整備・美化に対する意識につながっていると思いますか。	80.0%	A	保健委員会の活動は、生徒の健康増進や環境整備・美化に対する意識につながっていると思いますか。	76.4%	B	本や雑誌・新聞を目にしたたり、授業や調べ学習や試験勉強をしたり、放課後などの休み時間に図書館を利用したり、図書館を利用した活動や行事に参加したりしましたか。	27.0%	C	ご家庭でお子様は週に1回程度は活字の本や雑誌・新聞をお読みになる姿をご覧になりましたか。	63.3%	C	授業やその他の活動、または図書・資料の検索、貸出等で、図書館を利用できましたか。																																		
	④	保健委員会活動の充実	保健	健康管理や環境整備・美化活動を、集会や掲示物、放送等で呼びかける。また、掃除用具の整理・補充を定期的に行う。	生徒・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○	—	—	—	96.3%	A	保健委員会の活動は、あなたの健康増進や環境整備・美化に対する意識につながっていると思いますか。	80.0%	A	保健委員会の活動は、生徒の健康増進や環境整備・美化に対する意識につながっていると思いますか。	76.4%	B	本や雑誌・新聞を目にしたたり、授業や調べ学習や試験勉強をしたり、放課後などの休み時間に図書館を利用したり、図書館を利用した活動や行事に参加したりしましたか。	27.0%	C	ご家庭でお子様は週に1回程度は活字の本や雑誌・新聞をお読みになる姿をご覧になりましたか。	63.3%	C	授業やその他の活動、または図書・資料の検索、貸出等で、図書館を利用できましたか。																																									
	②	図書館活用の充実と読書活動の推進	図書情報研修	・図書資料の活用の充実を図り、図書委員会の活動等を利用して活字に親しむ生徒を育成し、図書館利用を促す。 ・教科指導や総合的な探究の学習の時間などにも活用できる図書や環境整備に努める。	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○	—	—	—	76.4%	B	生徒の図書館利用は一定数あった。先生方に選んでいただいた本や新聞も図書館にあるので、クロームブックでは取り出せない情報や情報源が信頼できる情報入手できる環境があることをアピールする。 ・利用の少ない教科へ利用法の提案を行う。	27.0%	C	ご家庭でお子様は週に1回程度は活字の本や雑誌・新聞をお読みになる姿をご覧になりましたか。	63.3%	C	授業やその他の活動、または図書・資料の検索、貸出等で、図書館を利用できましたか。																																															
	②	特別支援教育の推進と生徒理解	特別支援教育	・教職員研修の企画・実施や便りの発行を行い、生徒の多様性を理解するための情報提供をする。 ・特別支援教育推進委員会や学年会で校内の情報共有するとともに、外部機関とも連携を図り、生徒の自己実現に向けた支援をする。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	85%	○	—	—	—	83.3%	B	・教職員研修やChromebookによる困り感チェックシートを実施することで、生徒の多様性についての理解を深めることができた。次年度はミニ研修会や便り等の実施回数を増やし、教職員の特別支援教育への理解を一層深めたい。																																																					
	③	人権教育の充実と、自他の人権を尊重し多様性を認め合う教育の実践	人権教育	・人権教育に関するホームルーム活動の企画・実施 ・授業づくりに関する教職員研修の企画・実施 ・集会や便り等における啓発	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	85%	○	—	—	—	98.0%	A	あなたは、学校生活の全体を通して、人権感覚をみがくことの大切さを理解し、自他の人権や多様なあり方・生き方を尊重することができましたか。	79.8%	B	学校は、人権に関するホームルーム活動を中心に、教育活動の全体を通して、生徒が自他の人権を尊重し、多様性を認め合うことができていますか。	93.3%	A	人権に関するホームルーム活動や、便り、教職員研修、推進委員会等は、生徒の人権感覚を磨き、人権意識を高めるうえで効果的でしたか。																																															
	②	自己理解の促進と、他者を尊重する心の育成	1年学年会	「産業社会と人間」を中心に進路意識を育み、自己理解に基づいた自己実現に向けて適切な系列選択ができるよう支援する。	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○	—	—	—	97.8%	A	・授業や個人面談を通して自分の目標に合った系列選択ができているかどうか等、適切な選択を支援できた。また、系列の人数制限については最終的に生徒の志望を尊重することができた。次年度以降、系列のあり方を含め学校全体として検討する必要があると考える。	84.4%	A	学校は、お様が希望の進路や目標に合った系列選択をするために十分な支援をしていましたか。	93.3%	A	「産業社会と人間」の授業や担任の先生との面談は、あなたが卒業後の進路について考え、自分に適した系列を選択するための助けとなりましたか。																																															

②	将来の進路実現に向けての目標設定の確立	2年学年会	・進路設計の授業やインターンシップ等でねらいを確認させつつ、中長期的目標につながるよう進路意識を深めさせる。	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○	あなたは将来の進路実現に向けて自分の目標や興味・関心に合わせて主体的に考えることができたと思いますか。	97.3%	A	・担任の先生を中心に、生徒との面談を定期的 に実施し、生徒の実態把握に努め、個別に具 体的な支援をすることができた。 ・学年会は定期的に実施することはできたが学 年間での情報の共有はもう一つだった。次年度 の課題である。 ・総合探究（進路設計）やPBLインターンシッ プ等を行ったが、狙いほど進路意識を深めさせ られなかった。次年度に向けての急務な課題で ある。	A
					80%	○	お子様は将来の進路実現に向けて自分の目標や興味・関心に合わせて主体的に考えることができたと思いますか。	89.6%	A		
80%	○	生徒の進路実現に向けてそれぞれの目標や興味・関心に合わせて主体的に考えさせるための指導体制として効果的に機能していましたか。	93.3%	A							
-	教育施設・設備の充実と円滑な学校運営	事務	・効果的な予算執行による施設・設備の充実 ・支援金等制度の周知徹底と申請手続きの支援	保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	95%	○	電話や来校時など、事務室の対応は丁寧だと思いますか。	89.6%	A	・目標は下回ったが、保護者への支援制度等の周知 は概ね図ることができた。また予算確保による施設 等の整備については、コロナ関連予算の減により昨 年度より下回った。	A
					95%	○	教職員と連携した効果的な予算執行だと感じていますか。	90.0%	A		
②	生徒の成長を促す授業実践の環境整備	教務	・授業実践力の向上  ・全体環境の整備 (ユニバーサルデザイン環境の定着を推進し、 落ち着いた授業環境を構築する)	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○	あなたはICT機器の活用や教材の工夫をすることで、生徒が主体的に対話的な学習活動を行うための授業づくりができましたか。	83.3%	A	・ICT活用に関する研修を学期毎に開催し、 Chromebookで稼働可能な機能を活用した授業づ くりができた。 ・AIの活用や新しいアプリケーションの開発が 進んでおり、今後もそれらを活用するために研 修会や互見授業を実施していきたい。	A
					80%	○	あなたは授業を受けるに際して、先生から明確な目標が示され、その目標に到達するために授業の工夫がされていると感じましたか。また、あなた自身はその目標に向けて努力することができましたか。	97.6%	A		
②	自己実現に向けて主体的に取り組む態度の醸成	生徒指導	・生徒主体で達成感ももてる生徒会活動を創造する	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○	あなたは、仁心祭等の学校行事を通して、主体的に取り組む、達成感ももてましたか。	98.4%	A	・今年度の仁心祭は120周年記念のため、生徒に思 い出に残る仁心祭になるように、新しいアイデ アの提案やいろいろな課題を投げかけ、取り組 ませた。生徒は積極的に意見を出して取り組み 成果を上げた。 また、卒業生も協力をしていただいた。 生徒は主体的に取り組むことができた。	A
					80%	○	学校は、仁心祭等の学校行事を通して、生徒が主体的に取り組む、達成感ももてるように生徒を支援しましたか。	91.4%	A		
80%	○	仁心祭等の学校行事を通して、生徒が主体的に取り組む、達成感ももてるように生徒を支援しましたか。	90.0%	A							
③	相談活動の充実と推進	保健	・校外の連携体制を活用し情報の共有や課題解決に向けた取り組みを進める。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○	支援を要する生徒に対して、校内での連携体制が有効に機能していると思いますか。	83.3%	A	・担任や関係部署に声をかけながら情報共有が でき、ケース会議等に繋げることができた。課題を抱 える生徒を把握するための更なる環境づくりが必要 である。	A
③	居心地のよい寄宿舎運営	舎務	・寄宿舎内の環境美化に取り組む。 ・外部舎監の方と情報共有し、生活・生徒指導を徹底する。	教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○	寄宿舎の生徒は、落ち着いて生活を送っていると感じますか。	53.3%	C	・外部舎監からの連絡帳の記述を 確認し、連携を図る。必要に応じ て、適宜、寮生連絡会を行い、寮 生への指導をしていく。個別指導 も行う。	C
②	個々の進路実現に向けた指導の徹底	3年学年会	・面談を通じて生徒理解を深め、家庭等とも連携を密にしながら個々に応じた指導、支援を充実させる。 ・課題や目標を意識させ、授業や資格取得、模擬試験などに積極的に取り組ませて学力の向上につなげる。	生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	○	学年集会や個別面談、定期試験前の目標設定は、あなたのやる気を高め、進路実現につながるような成長のきっかけを与えてくれるものとなりましたか。	98.8%	A	・全ての教職員で指導に当たり、生徒が合格に 向けて行動できるよう支援して進路の決定につ ながることができた。 ・進路情報や受験の手続きの方法について、生 徒、保護者によっては個別な対応が必要であ った。	A
					80%	○	保護者進路説明会・保護者面談や学年通信・学級通信などの便りには有効な情報提供の場となり、お子様の進路実現につながるものでしたか。	92.2%	A		
					80%	○	全体・個別指導などの学年会における取り組みは、生徒の実態を把握し、進路実現や社会人としての基礎力を培うにふさわしいものでしたか。	96.7%	A		

グランドデザインに 関わる	実績・資格	A指標		新規高卒者の就職率	100%	-	-	-	100%	A	・次年度以降も尽力したい。	A	・早い時期から進路学習に取り組 み、生徒や保護者が高校卒業後の進 路についてしっかり考える機会を持 つ。 ・進路情報の積極的な提供。
				就職者のうちの県内就職者の割合	80%	-	-	-	84.1%	A	・次年度以降も尽力したい。		
				系列の学びを活かした進学・就職者の割合	30%	-	-	-	52.5%	A	・達成できているが、より一層、系列の学びを 将来に活かす工夫が必要である。		
	姿勢・意欲	B指標	主体性	生徒アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	75%	○	-	-	自らすすんで、学習に取り組むことができましたか。	95.1%	A	・生徒にもグランドデザインの中 の「育成方針」（グラデュエー ションポリシー）を意識させた上 で、教育活動を実施する。（教室 掲示など）  ・島根県立大学、大田市教育委員 会、大田高校、遼摩高校の4者連 携を活用する。	A
					75%	○	-	-	わからないことを友人や先生に聞いたりして、解決しようとしていましたか。	96.7%	A		
					75%	○	-	-	人の話をよく聞き、話し合いなどに熱心に参加できましたか。	98.8%	A		
					75%	○	-	-	授業やクラス、部活動などで自分の役割を果たすことができましたか。	98.0%	A		
					75%	○	-	-	疑問に思ったことを自分で調べることができましたか。	92.3%	A		
					75%	○	-	-	自分の意見をまとめて発表できましたか。	87.0%	A		
					75%	○	-	-	学校の決まりや社会のルール・交通ルールを守って生活できましたか。	98.4%	A		
75%	○	-	-	地域の行事やボランティア活動に参加しましたか。	59.8%	C	・学校と地域を繋ぐ人が欲しい。						
成果力 指標	高校の魅力化につながる教育活動やそれに関わる大人（地域）の増		魅力化アンケートの学習環境の4領域の結果が4領域とも70%以上	75%	-	-	-	主体性89.2% 協働性88.6% 探究性88.7% 社会性74.3%	A	・昨年度と比較して、主体性、協働性、探究性 は向上しているが、社会性については、1%ダ ウンしている。	A	・地域の方も巻き込んだ教育活動を今後 も継続していく。異年齢の方と接すこ とで、社会性を身に付けさせる。	
				80%	-	-	-	就職84.1% 進学58.3% 合計72.5%	B	・昨年度は、就職87.9%、進学57.1%で 合計72.0%であり、全体的に増加傾向にある。 ・学年により、生徒の希望も変化するが、探究 学習などを通して地域貢献できる生徒を育成し ていきたい。	B	・今年度、実現できなかった地元企 業の見学をし、地元企業について学 ぶ機会を増やす。	
				100%	-	-	-	93名	B	・推薦入試で10名（昨年9名）が合格内定。一般 入試志願者は、83名（昨年88名）。若干減少し た。中学校への情報発信が課題。	B	・オープンスクールを2回開催する が、遼摩高校の魅力（総合学科の強 み）が伝わる内容に見直しをする。	